

十二使徒シリーズの導入 「働き人の成長過程」

Iコリント 1:26-31

2020.3.29 HKJCF

1

概観

御国の働き人になるつれて、自我のプライドが砕かれていくプロセス、そして恵みの理解が前進することが大事である。

アウトライン

- | | |
|----------|--------|
| 1. 人間の関心 | V26-27 |
| 2. 人間の特権 | V28-29 |
| 3. 人間の成長 | V30-31 |

2

1. 人間の関心 V26-27

- 1) 知識、権力、身分：当時のギリシャ・ローマ社会の関心→偶像=本当の神の代替品。
- 2) あなたがたの召し：福音の美しさ（ガラテヤ 3:28；ローマ 3:22-24；Iコリント 1:22-25）。
- 3) 神の知恵：十字架を通しての救いの計画（σκάνδαλον, skandalon と μορφή, mória）；ガリラヤ出身の大工の子と漁師たちの弟子。
- 4) 人間の高慢さ：「イエスを使って」の動機；弟子たちの初期の動機；動機の洗練化。

3

2. 人間の特権 V28-29

- 1) 取るに足りず、見下されている者：謙虚な心（教わる心）が大事；心の貧しさ（マタイ 5:3-5）と自分の弱さ（IIコリント 12:9）が分かる人。
- 2) 神様の選択：欠点だらけのアブラハム（創世記 12:1-3）とモーセ（出エジプト 3:9-11）。神の御業（創世記 18:13-14；出エジプト 12:40-41）。
- 3) だれも誇らせないため：人間のはかなさ；
コロナから学ぶ：地位と名誉；圧迫と自由；健康と家族；時間と仕事；平安と人間の使命。

4

3. 人間の成長 V30-31

- 1) イエスのうちにある：内住の確信；揺るがない平安；苦しみと慰め（IIコリント 1:3-7）。
- 2) キリストが知恵となる：知恵=父なる神を知ること；御言葉によって生きる習慣。
- 3) 義と聖めと贖い：①救いを受け入れる ②神の子にふさわしく生きる ③支払われた代価に感謝する→キリストから与えられる。
- 4) 誇る者は主を誇れ：誇り=主を知っている（エレミヤ 9:23-24）→神の賜物（エペソ 2:8-9）。

5

適用

- ①御国の拡大に使命が与えられている：
自分が弱くても、取るに足りないと思っても、御国のために必ず何かできるという確信をもって、自分を捧げていこう。
- ②キリストのうちにあることは誇りである：
キリストによって義とされ、聖められ、贖われているので、その愛に応えていこう。

6